

“从”が表す出発点・“到”が表す到達点

保坂律子

Departing point expressed by “从” *cong*, Reaching point expressed by “到” *dao*

Ritsuko HOSAKA

要旨

人们对时间及空间的间隔是怎样认识的？又是怎样把它语言化的？用不同的语言有没有什么不同？

在日语和汉语中人们是怎样从物理的角度上认识出发点与到达点，然后上升到抽象概念的领域对其进行叙述的？本文首先对此进行了研究。

另外，本文对汉语中关于表示起点的“从”与表示目的点的“到”在用法上的一些问题等进行了详细的考察。

0. 研究の目的

私たちは時空の隔たりをどのように認知し、言語化しているのだろうか。そしてそれは言語によって違いがあるのだろうか。

日常生活中で意識に上ることは少ないが、日本語において出発点（起点）を表す「～から」や、同じく到達点（着点）を表す「～に」などの場所や空間という物理的領域の叙述を表す表現は比喩的拡張を経ることによって時間をはじめ原因や結果をあらわすなど多くの抽象的概念領域へ拡張され使用されている。それは比喩的拡張を経た表現とは気づかぬことも多いほど自然に使われているが、中国語においても日本語と同じように具体から抽象へと拡張されているのだろうか。中国語においては起点や到達点はどのように認知され、それはどのような抽象的概念領域に拡張されているのだろうか。

本稿はまず日本語において出発点と到達点の比喩的拡張の例を見、それが原因と結果という因果関係の概念領域の叙述に用いられていることを確認する。その相互対照下において中国語の介詞“从”によって表される出発点、中国語の介詞“到”によって表される到達点がどのように言語化されているかを考察し、中国語における隔たり表現研究の一助とすることを目的とする。

1. 空間概念

本章では出発点と到達点を考えるにあたり、まず物理的な空間概念の情報と私たちの生活について触れておきたい。私たちは空間の中に身をおいて生活し、空間にかかわるさまざまな情報が日常生活の経験的な背景として機能している。またこの空間にかかわる情報、空間との相互作用を通して得られる知識は時間の概念をはじめとする日常言語のさまざまな意味領域を比喩的に特徴づける背景になっている。これについては山梨 1995 に詳しいが、山梨は空間に関わる表現から抽象的概念領域への叙述への例として次のようなものをあげて説明している。

- ① 長い間・短い期間(時間)
- ② 真実からほど遠い・真実に近い(類似性、同一性)
- ③ 一郎の実力は次郎の実力よりかなり低い(能力差)

- ④ 顔が広い・顔が大きい (知名度, 態度)
- ⑤ 性格がまっすぐだ・まがっている (性格描写)
- ⑥ 3つまで数えろ・20まで数えることができる (数のスケールに距離をマーク)
- ⑦ あまりの暑さから倒れてしまった。(起点を因果関係)

「長い」, 「短い」といった形容詞は基本的には場所や空間といった物理的対象を叙述する表現だが, 上記例の①では直接把握が可能な空間から時間という抽象的概念を叙述するものへと拡張されて使用されている。同様に②の「遠い」, 「近い」も本来的に物理的対象の遠近を叙述する表現だが, ここでは事物の類似性や同一性といった抽象的概念へと拡張されている。同様に③の「低い」は人間の能力差の叙述に空間の上下関係に関わる表現を用い, ④の「広い」, 「大きい」は人の知名度や態度を表すのに空間の延長に関わる属性を用い, ⑤の「まっすぐ」, 「まがっている」は性格描写に空間の延長に関わる属性を用いており, いずれも物理的な対象から拡張された表現である。⑥は抽象的な数のスケールの叙述に空間的な延長、距離をマークする助詞の「まで」が拡張されて使われている。

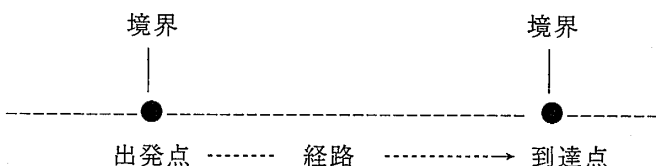
空間から抽象的概念領域への拡張の具体例をいくつかあげてみたが, 上記例のうち考察の対象としようとするのが⑦に代表される例である。⑦は本来的には出発点を表す「～から」が比喩的拡張をへて原因として解釈されているものである。

2. 出発点と到達点の拡張

⑦の出発点を表す「～から」が原因として解釈されているように場所, 空間の概念は比喩的な拡張のプロセスを介して時間をはじめ因果関係の概念領域へも適用されている。本章では次章から扱う中国語表現に考察を加える前に, 日本語と英語での出発点と到達点の拡張についてみておくことにしたい。

2. 1 出発点と到達点の定義

出発点と到達点を考えるにあたって重要な持たねえのは移動する対象である。出発点と到達点は「対象が空間を移動する境界を限定する」もので, 移動は「相離れた二点間を前提とする」ものである。これらを図に示すと以下の図のようになる。



2. 2 原因, 結果への拡張

出発点, 到達点は比喩的拡張を経て多くの抽象的概念領域に拡大されているがここではそれぞれ原因, 結果といった因果関係を叙述する領域への適用に注目して考察する。

2. 2. 1 出発点 → 原因への拡張

日本語の格助詞「～から」は場所的, 空間的起点を表すものであるが, 比喩的拡張をへて原因を表すのに使用されていることは⑦でみたとおりである。次にあげる⑧～⑩¹⁾はいずれも状況レベルでは同一事象を表しているが, 外部の状況レベルからは同一事象を表す格助詞「～で」を用いた場合と認知レベルの解釈は区別されることから理解されよう。

- ⑧ 娘は寝不足 {から・で} 体調を崩したらしい。
- ⑨ あの会社は経営赤字 {から・で} ついに倒産した。
- ⑩ あまりの空腹 {から・で} 道に倒れてしまった。

「～から」と「～で」の違いはこうである。たとえば「～から」を用いた表現⑧では寝不足から食欲不振を起こし, 体力の低下をもたらすなどの一連の結果として体調を崩したという読み, 結果としての事象が派

生する「起点」「源泉」という字義どおりの意味からする「起点」としての解釈が前面に現れている。しかし「～で」は単に原因を表すだけであるという違いがある。

この格助詞「～から」と同じような解釈が前置詞の from にマークされる英語²⁾にも見て取れる。

- ⑪ The man died from starvation.
- ⑫ They shivered from cold.
- ⑬ She became deaf from explosion.

2. 2. 2 到達点 → 結果への拡張

格助詞「～から」が出発点から原因を表すものへと拡張されて使用されるのと平行して場所や空間のマーカとして根源的には到達点を規定する格助詞「～に」も、比喩的解釈を経て結果を表すのに使用されている。「～から」からが原因を表すのに対し「～に」が結果を表すという図式が成立している。この「～に」についても「～と」を用いた場合とは認知レベルでは解釈が区別されている。

- ⑭ そのホテルは灰じん {に・と} 帰した。
- ⑮ 彼はその道の達人 {に・と} なった。

⑭、⑮³⁾ はいずれも外部の状況レベルからは同一事象を表しているが、認知的には「～に」の場合には到達点が結果としての解釈を持つが、格助詞「～と」を用いた場合には「AをBとみなす」「AをBとして理解する」のように同定として解釈されるという違いがある。日本語では同一事象に対して異なる格助詞を用いることで認知レベルの解釈を区別していることがわかる。

「～に」と同様の解釈はまた“to”にマークされる英語⁴⁾にも見て取ることができる。

- ⑯ You are dust, to dust you shall return.
- ⑰ The pottery has gone down to a dollar.

3. 出発点と“从”「～から」

前章までに、空間から抽象的概念領域へ叙述への拡張について日本語の格助詞「～から」および「～に」を取り上げてみてきた。そこでは「～から」が出発点から原因を表すものへと拡張され、また「～に」が到達点から結果を表すものへと拡張されていた。また、英語においても同様の解釈があてはまる例もみた。本章では、中国語における出発点について取り上げて考察する。

3. 1 場所、空間的出発点をマークする介詞“从”

中国語には日本語の格助詞に相当する助詞はない。多くの場合、格は語順によって決定されるが、機能的に格助詞に相当するのは“介词”(介詞、英語の前置詞に近い)であり、場所、空間的な出発点をマークするのは介詞“从”である。ところで中国語の介詞の多くは本来動詞であったものが派生してできたものが大部分を占めている。とすれば、その動詞の基本義と介詞の語義を彼我対照することでどのような概念領域へ比喩的拡張がなされているかを比較的容易に理解できるはずである。しかしながら“从”は動詞からの派生ではなく、数少ない本来的に介詞である語である。ここでは中国語の“虚词”(日本語の付属語に相当)を中心に意味と用法を分類し詳細な説明を加えた最も信頼できる語釈書である《现代汉语八百词》からの説明をあげる。(訳は筆者)

“从”〔介〕

1. 表示起点.常跟到往向等配合使用.(起点を表す.よく“到,往,向”などと組合わせて使用される.)
 - a. 指处所,来源.跟处所词语,方位词语组合.(場所, 来源を意味する. 場所語句, 方位詞と組み合わさる)
 - 邮局从这儿往南去.
 - 从东到西
 - 从本质上看问题

知识从实践中来

- b. 指时间.跟时间词语,动词短语或小句组合.(時間を意味する.時間語句,動詞フレーズと組み合わせる)

从早到晚

从明天气改为夏季作息时间

- c. 指范围.跟名词,动词短语或小句组合.(範囲を意味する.名詞,動詞フレーズと組み合わせる)

从头到尾

从小孩到大人投入了战斗

- d. 指发展,变化.跟名,动,形,数量组合.(発展,変化を意味する.動詞,形容詞,数量と組み合わせる)

从衰到人

从外行变成内行

2. 表示经过的路线,场所.跟处所词语,方位词组合.(経過する路線,場所を表す.場所語句,方位詞と組み合わせる)

从小路走

从空中运输

3. 表示凭借,根据.跟名词组合.(依拠,根拠を表す.名詞と組み合わせる)

从工作上考虑

从实际情况出发

上記のように《现代汉语八百词》では“从”の意味として大きく3つ,すなわち1.起点(場所,来源,時間,範囲,発展,変化),2.経過した路線・場所,3.根拠・依拠をあげている.この3分類のうち1.起点の下位分類にあげられている項目に注目すると,日本語の格助詞「～から」と同様に場所から,来源,時間,範囲,発展など抽象的な事物の起点へ拡張されて使用されていることがわかる.すなわち,中国語においても日常言語を介して直接的には把握できない抽象的意味での起点についても,場所の起点と同様の類似性を認め出発点と同様の“从”を使って叙述していることが見て取れる.

以上からは第一章でみた日本語「～から」の場所を表す出発点からの抽象的概念領域への拡張と“从”の抽象的概念領域へ拡張の解釈はおおむね通ずるものであることが理解できる.

3. 2原因を表す介詞“由”

中国語の“从”が表す「来源」には,しかしながら因果関係における原因を表すものは含まれておらず,“从”には日本語の格助詞「～から」の原因を表す用法が含まれていない.すなわち因果関係における「原因」は出発点からの拡張とは認知されていないことになる.では中国語において原因を表す日本語の「～から」に相当する介詞は何であろうか.それは介詞“由”である.以下に《现代汉语八百词》からの説明をあげる.

“由”〔介〕

1. 引进施动者,跟名词组合.

运输问题由他们解决

现在由老张介绍详细经过

2. 表示方式,原因或来源.

大会代表由民主协商,选举产生.

由感冒引起了肺炎(風邪から肺炎を引き起こした)

3. 从

- a. 表示处所起点或来源.

由南到北

b. 表示时间起点.

由早上九点到晚上八点

c. 表示发展,变化,范围的起点.

由蝌蚪变成青蛙.

d. 表示经过的路线,场所.

由这条路走近多了

e. 表示凭借,根据

由试验结果看,效果很好.

“由”の第一義的な働きは動作の行い手, 実行者を導くことであり「～によってVされる」と訳出される. この“由”の第二の意味項目中に, 先にみた⑦, ⑧の例と同じ結果にいたる原因を表す「～から」があげられている. “由”の第一義的な働きから日本語に比べて原因が積極的関与者として前面にでていいると考えられる. 注意すべきは第三の意味項目として“从”を持つことである. これは換言すると“从”には第二の意味項目であげている「原因」を表す「～から」の用法は持たないという傍証ともなる.

以上を大雑把にまとめていうなら, 中国語においても出発点をマークする介詞“从”は抽象的な起点を表す概念領域に拡張されて使用されており, この点で日本語や英語と同様に具体から抽象的概念領域への比喩的拡張が行われているといえる. しかし“从”は因果関係の原因を表すことはできず, 原因を表すためには出発点からの拡張ではなく動作の行い手, 実行者を導く意味をも持つ介詞“由”「～によって」により因果関係の原因としての関与が前面に表れるなど, 中国語と日本語と出発点を表す語からの抽象的拡張は完全には重ならないことが理解される.

4. 到達点と“到”

さきに第一章で場所、空間のマーカーとして根源的には到達点を規定する格助詞「～に」は認知的に比喩的解釈を経て, 到達点が結果としての解釈がなされていることをみた. 中国においては到達点をマークするのは“到”である. この“到”は介詞“从”とは異なり, 本来的には動詞であったものが介詞として使われるようになったもので, 動詞としての用法も持っている. さらに“到”を介詞とは認めず, 動詞とする立場をとる説もあり, さきの《現代汉语八百词》においては動詞としての扱いとなっている. 以下見てみよう.

“到”〔動〕

1. 到达;达到. 可帶了, 过. 可帶表示处所或数量的宾语.

老王到了

春天到了

到八点再开会

動詞として第一にあげられているこの用法が“到”の基本義である. すなわち, 「ある場所やある時間, 量に達する, 到達する」という働きである.

2. 往. 必帶表示处所的宾语.

到历史博物馆参观去.

到我那儿谈吧.

動詞の第二のこの用法は一般には介詞の用法とされるものである. つまり介詞“到”は後ろに場所目的語をとって介詞フレーズを構成し「(ある場所)に～する」として述語動詞の連用修飾語となると解釈されている. しかし《現代汉语八百词》での記述では動詞として「ある場所に行って～する」と動作が時系列的に発生する連動文の形として説明されている. 本稿では, 動詞か介詞かの品詞に関する問題について扱うつも

りはなく、ここでは“到”が必ず場所目的語か数量表現を取り、そこへ到達することを表す点に注意したい。
《現代汉语八百词》ではさらに以下に“到”は動詞に後置される方向動詞としての用法が説明されている。
〔趋〕

1. 动+〔+名(受事)〕表示动作达到目的或有了结果。(動作が目的に到達したあるいは結果をみたことを表す)

好容易走到了

你要的那本书我已经找到了

2. 动+到+名(处所).表示人或物随动作到达某地。(人あるいは物が動作につれてある場所に到達することを表す)

他回到了家乡

成绩单已经寄到了学生家里去了

3. 动+到+名(时间)表示动作继续到什么时候.名词为表示时间的词语.动词和到中间一般不能加得,不。(動作がいつまで継続するのかを表す)

等到明年暑假我再来看你

大风刮到下午两点才停止

4. 动/形+到+名 表示动作或性质状态达到某种程度.名词多为数量短语或表示程度的词语。(動作あるいは性質, 状態がある程度まで到達することを表す)

他的视力已经减退到了零点一了

这里的冬天可以冷到零下二十度

5. 形+到+动/小句.表示状态到达的程度.到的作用接近于引进结果-情态补语的助词“得”,多数例句可以改用“得”。(状態が達する程度を表す.“到”の働きは結果補語, 様態補語における助詞の“得”に近く, 多くの例で“到”を“得”とすることもできる)

船上平稳到跟平地上差不多

声音高到不能再高了

以上の《現代汉语八百词》の記述からは,“到”は「～に達する」という動詞本来の意味から「～に」「～まで」と到達点,そして範囲を表す意味で用いられていることが見て取れる.方向動詞の1の用法では動作が目的に到達したこと,あるいは結果を見たことを表し,2の用法では人または物が動作につれてある場所に到達したことを,3の用法では動作がいつまで継続したのか,継続するのか,すなわち動作がそこに到って終わる時間を表し,また4では動作や性質や状態がある程度,レベルに到達したことを表し,さらに5では状態が到達した程度を表し,そこでの“到”は結果補語や様態補語を導く“得”の働きに近い,と説明されている.これらの説明からは“到”で表されるある動作の性質,状態はいずれもある結果が含意されるとみなすことが可能といえよう.

また,《現代汉语虚词例释》では“到”の品詞を介詞とした上で,次のような説明がなされている
“到”(介詞)

一.由“到”组成的介词结构,做动词的补语.(“到”によって構成される介詞フレーズは動詞の補語になる)

1. 介绍出动作的趋向(動作が向かう方向を導く)

阳光从天窗上,斜斜地透进来,象一支纯白透明的箭头,直指到那大大得横匾上,

2. 介绍出动作涉及的范围,对象(動作が及ぶ範囲,対象を導く)

我们先来说一般性的纲领,然后再说到具体性的纲领.

3. 说明动作持续的时间(動作の持続時間を説明する)

有一年春天大早,直到阴历五月初才下了四指雨.

4. 表示行為動作所達到的程度（行為や動作が到達する程度を表す）

甲板上平稳到简直可以坚立一个鸡蛋

また、同書は次のように記し、上記一の用法が動詞の後ろから動詞を補充説明する“補語”（補語）と理解することもできると説明している。

以上几种情况，也可以理解为“到”做补语，组成动补结构，后边是宾语。（以上にあげたいいくつかのケースは“到”を補語として理解可能で、動補（動詞補語）構造を構成する。うしろは目的語である）

二. 由“到”组成的介词结构做状语，介绍出动作的时间，表明动作到这时候为止的状况。（“到”によって構成される介詞フレーズは連用修飾語になり、動作の時間や動作がある時間に終わることを表す）

到夏天，一望无际的草原上牧放着牛羊群，水草茂盛…

到吃午饭的时候，第一营的战士们连续击退了敌人七次攻击。

三. 固定格式 从…到… 表示空间，时间，动作，状态或系列的起迄点。（固定フレーズ“从…到…”は空間，時間，動作，状態などの起点と終点を表す）

从天津到北京，坐火车两小时就可以到达。

伟大的中华人民共和国，从成立到现在，已经有五十周年了。

我们应该深刻地注意群众生活的问题，从土地，劳动问题，到柴米油盐问题。

以上の記述から、中国語“到”は動詞基本義「～に到達する」意味を色濃くとどめながら拡張されて介詞として、あるいは動詞の補語として「～に」と結果を表し、また“从”と組み合わせり範囲を表す「～から～まで」の意味を表すことは明らかである。

5. “到”の拡張と結果の含意

ここでは前章でみた“到”が、動詞本来の働きを残しつつ結果としての到達点を表すことから、また起点を表す“从”と呼応し「～から～まで」と範囲を表すように拡張されているという点に着目することにより、いくつかの問題の解決を試みてみたい。

5. 1 範囲と起点

“到”が「～まで」のように範囲を表すには起点を表す表現が前提であることは、《現代汉语虚词例释》での“从…到…”固定フレーズとして使用される」という記述にも見え、具体的にはたとえば

⑱ 从北京到天津有一百二十公里（北京から天津まで120キロある）

という表現は自然に成立するが起点が明示されない次の

⑱' * ϕ 到天津有一百二十公里（天津まで120キロある）

はこのままでは成立せず⁵⁾、次の

⑲ 从这儿到天津多远？（ここから天津までどれくらいありますか？）

のような質問に対する答えのように、すでに起点が話題に上がって明らかになっている場合に初めて⑱'は成立する。あるいは

⑳ ϕ 到十点还有十分钟（ ϕ ＝現在）（十時まであと10分ある）

のように無標であっても「発話時現在から」のように慣習的に何（“从现在开始”）が省略されているか決まっている場合に限られる。

5. 2 時間的隔たりと“到”

ところが次の㉑は先の㉒「10時まであと～」と同様に発話時からの時間的へだたりを表すにもかかわらず成立しない。

㉑ * ϕ 到出发只有两天了（出発まで二日しかない）

さらに“从今天”（今日から）で起点を示し“从今天到出发”（今日から出発まで）と範囲を明示した㉑'も

成立しない。

⑲' *从今天到出发只有两天了 (今日から出発まで二日しかない)

⑲'の文意を変えずに自然な中国語にするなら

⑲" *离出发只有两天了 (出発まで二日しかない)

のように“到出发”ではなく“离出发”のように介詞“离”を用いる。この“离”については保坂 1998 に詳しいが、時間的隔たりを「～から～まで」と表すには起点や到達点を表す“到”ではなく、介詞“离”を用いてある時点までどれくらいであるかを表す。同様に「～まで」と時間的隔たりを表すのであっても不成立である例をもう一例挙げてみる、

⑲' *到开车还有两个小时 (発車まであと二時間ある)

⑲'も⑲'のように起点を明示し範囲を示しても、「～まで」と時間的な隔たりを表すことはできない。

⑲' *从现在到开车还有两个小时 (今から発車まであと二時間ある)

これら⑲, ⑲'が不成立であることと、⑲が成立することの差異を明らかにすることが、“到”の認知と“到”の特徴の考察に有効であろう。

5. 3 “到”の目的語の性質

まず、“到”の目的語の性質に着目する。⑲, ⑲'での“到”の目的語はいずれも動詞である。日本語ではいずれも「出発」「発車」として名詞としての扱いであるが、中国語“出发”“开车”は動詞である。それに対し⑲'での“到”の目的語“十点”は名詞である。“到”の目的語の品詞にのみ着目すれば、これらの結果からは介詞の目的語が名詞だと言いやすく、動詞は言いにくいとする考え方が導かれよう。介詞としての“到”は本来「～へ行く、～へ到達する」という動詞で本来場所目的語をとるべきもの、その“到”の目的語がさらに動詞であることが矛盾するという説明はなるほど説得力がある。確かに場所目的語、すなわち名詞であれば容易に成立する。しかし、文法的性質は⑲, ⑲'と同じであるにもかかわらず動詞であっても成立する例がいくつかある。

5. 4 結果としての到達点

そこで“到”の目的語が結果としての到達点と理解可能かということが効いてくる。動詞が結果としての到達点という観点からのアプローチはどうであろうか。すると次のように目的語が動詞であっても成立する例をあげることができる。

⑲ 晚会刚开始,到结束还有两个小时 (パーティは始まったばかりで、お開きになるまでまだ二時間ある)

⑲ 战斗刚开始,看来到结束还需要很长时间。(戦闘は始まったばかりで見たところ終結までにはまだかなりの時間がかかる)

この言語事実は“到”の目的語が動詞であるにもかかわらず“结束”のように「終わる、終結する」という明らかにゴールとしての、到達点、結果として認知される事象であれば品詞に関わらず成立する可能性を強くうかがわせるものである。これはさらに次のような例で一層明らかなものとなる。

⑲ 到接班还有三个小时 (勤務の交代まであと三時間ある)

⑲ 到下班还有三个小时 (退勤まであと三時間ある)

⑲ *到上班还有三个小时 (出勤まであと三時間ある)

⑲、⑲、⑲'で“到”の目的語となっている下線を付した3つの動詞はいずれも構造が同じ、すなわち動詞そのものの内部がV+O構造からなるものである。目的語部分の“班”は「勤務」を表す名詞、動詞部分はそれぞれ“接”が「引き継ぐ」、 “下”が「(勤務が)ひける」、 “上”が「(勤務に)出る」という意味から構成される動詞である。これら3つの動詞のうち“到”の目的語に“上班”をとる⑲'だけが成立しない。これは⑲の“接班”「勤務の交代」、⑲の“下班”「退勤」が到達点、結果、終結と認知されるのに対し、⑲'の“上班”「出勤」は事象としてある始まりであって、到達点や結果、終結とは対極にあると認知されるゆえに“到”

になじまないと解釈できる。以上のように理解すれば本来は試験まであとどれくらいというような場合には成立しない“到”を使った㉔のような例も㉔のような文脈では成立することに対する明解な説明を与えることが可能となる。㉔を見てみよう。

㉔ *到考试只有两天了（試験まで二日しかない）

これは先の㉑”でみたように時間的隔たりを「～から～まで」と表すのに起点や到達点を表す“到”ではなく、ある時点までどれくらい隔たりがあるのかを表す介詞“离”を用いて㉔’のように表現される

㉔’ 离考试只有两天了（試験まで二日しかない）

ところがこの「試験」が単なるテストではなく、“高考”（“全国高等院校招生统一考试”＝中国における大学の入学統一試験）の場合、小学生の頃から難関大学の入試突破を自己の勉強の最大の目標としてきた子供などに限って言えば“高考”を終点、ゴールととらえる意識が強くなり、㉔の表現も成立可能となる。

㉔ 到高考还有一年（大学入学統一試験まであと一年ある）

以上からは“到”は「ある場所へ行く」という物理的な到達点からの拡張を経て抽象的な結果、ゴール、到達点を表し、“到”の目的語が結果としての到達点と理解可能かどうか文としての成立に関与的であることを明らかにした。

6. 結び

本稿は出発点（起点）や到達点（着点）など場所や空間という物理的領域の叙述を表す表現が、日本語において比喩的拡張を経ることによって時間をはじめ原因や結果を表す抽象的領域へ拡張され使用されていることに着目し、第一章では空間概念の情報と私たち言語生活についてふれた。第二章では出発点と到達点がどのような抽象的概念へ拡張されているのか、日本語の格助詞「～から」「～に」についてとりあげ、その際、日本語の格助詞と同様な解釈が英語の前置詞にも認められることもみた。第三章では中国語における出発点について考察し、中国語においても出発点、起点をマークする介詞“从”は抽象的な起点を表す概念領域の叙述に拡張されて使用されていることを確認した。しかし“从”は日本の語「～から」や英語の from のような因果関係における原因を表すことはできず、因果関係における原因を表すには動作の行い手、実行者を導く意味を持つ介詞“由”によって担われており中国語と日本語における出発点を表す語からの抽象的拡張は完全には重ならないことを明らかにした。第四章では中国語における到達点について考察した。中国語において到達点をマークするのは本来的には動詞である“到”である。これを動詞、介詞のいずれの品詞ととるかの立場の違いはあるが、いずれも“到”でマークされる動作や状態、あるいは性質はいずれもある結果が含意されているとみなすことが可能であり、“到”は動詞本来の基本義「～に到達する」を残しながら抽象的領域の叙述に拡張されていることを示した。第五章では“到”の拡張と結果の含意という観点から、結果の含意の有無が“到”を用いた中国語表現の成立に関与的であることを明らかにした。

本稿は第五章において“到”が“V到”という補語の形で結果を表す場合についての考察を加えていない。本稿であげた《現代汉语八百词》や《現代汉语虚词例释》中で言及があるように“V到”についての考察は“到”のより深い理解のために有効であるに違いない。今後の課題とし、稿を改めて論ずるつもりである。

〔注〕

1) 山梨 1995P53

2) 同上 P53

3) 同上 P54

4) 同上 P55

5) *は不成立であることを示す。

[参考文献]

- 吕叔湘 1980《现代汉语八百词》商务印刷馆
北京大学中文系 1955・1957 级 语言班编 1982《现代汉语虚词例释》商务印刷馆
李芳杰 1983〈说“从…到…”〉《汉语语法规范问题研究》武汉大学出版社
山梨正明 1995『認知文法論』ひつじ書房
J. レイコフ著 池上嘉彦他訳 1993『認知意味論』紀伊国屋書店
寺村秀夫 1982『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』くろしお出版
寺村秀夫 1984『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
原由起子 1998「“从” — 来源を表すものとして」姫路独協大学『外国語学部紀要第 11 号』
森宏子 1998「“从” の空間意識」『中国語学 245』
保坂律子 1998「“离” が表す時間的「隔たり」」『お茶の水女子大学中国文学会報第 17 号』